



CCS便り

NPO 法人 キャリア・カウンセラー札幌
令和2年 5月 8日発行

会報 Vol .24

〒060-0052 札幌市中央区南2条東6丁目 2-1
B-205

TEL. 011-596-6242

FAX. 011-596-6267

E-mail ccs2012@vega.ocn.ne.jp

URL <http://www.ccsap.jp>

今年度の取り組みテーマは

我々の法人「キャリア・カウンセラー札幌」は2012年に設立して活動を続けて、今年で9年目を迎えました。

過去、8年間、求職者支援とキャリア・カウンセリングの普及啓蒙を目標に活動を続けてきました。

今年度の取り組みテーマにしていることが、2つあります。

一つ目は、「スーパバイズ」を含む研修の開始です。

能力の絶え間ないブラッシュアップの必要性は理解されていると思いますが、カウンセリング能力の維持、向上において最も重要であろう「スーパバイズ」の仕組みが我々の世界でまだ確立していないのではないかと思います。

カウンセラーの養成をした機関が責任をもってスーパバイズをしていないし、そういう機関のどんなホームページを見てもシステム化は十分にされていないと思います。

我々の能力には限界はあるのですが、ある程度のレベルに達すれば形にしてお示しをして研修の参加者を募っていきたいと考えています。

二つ目は、コンピテンシー面接に対応する面接トレーニングの実施です。

現在の面接で主流になっているコンピテンシー面接に対して、それを踏まえた面接の指導が公的支援や学校に普及しているかという疑問です。

これらの公的支援や学校で行っている面接指導は型にはまった、今まで行われているものの繰り返しが主流だと思います。例えば、礼法であるとか、簡単な質疑応答、類型的な質問への回答が主で踏み込んだ質疑応答が指導されていないのです。

そこで、新しい面接トレーニングを考案、企画して実施したいと考えています。

NPO法人キャリア・カウンセラー札幌

理事長

平澤 麦生

キャリア・カウンセリングにおけるスーパーバイズの重要性

あるブログからの抜粋です。

カウンセリングという仕事柄、言葉を通して会話するわけですが、「言葉」って美しい表現方法の一方で、意図と背景を理解しないと、時折、「言葉」だけが先走り、理解を邪魔する。

とはいえ、行間を読みあう文化も好きだし、でもはっきり伝えないとわからないこともあるし。

小さい頃から、詩とか短歌が好きなんだけれど、その面白さは、イマジネーションを働かせて表現された世界観を味わう楽しさ。

行間も含めて言葉と態度と表情と、存在全体でコミュニケーションできる人でありたいなあ。

カウンセリングをする上で、すごく大事にしていることの1つです。

「言葉」だけが先走り、理解を邪魔する。この部分にこの人のカウンセラーとしての深さを感じます。

というのも、受容、共感で相手の理解に努めるのがカウンセラーの基本動作だと思うし、相手のことを深く理解しようとするれば、まずは聴きに徹する必要があります。

自分の「言葉」に酔っている人達を偶に見ます。

カウンセリングの神髄は質問を通して、相手の「気づき」を促すことだ、ということ忘れて夢中になって話しまくっている人達をかなり見てきました。

こうした現象を食い止めるには、その人達に自らのカウンセリングの根本的な欠陥に「気づき」を促すスーパーバイズの機会を増やすことと機会を与えること、しかないと考えます。こういう意味で、スーパーバイズの機会を増やしていきたいものです。

ある組織でキャリア・カウンセラーの勉強をしていた時のことです。

持っていた資格の上級資格の受験対策講座が行われました。

自分だけで試験を突破する自信がなかったので、それを受けることにしました。

指導者とロールプレイをしましたが、それは10分と続きませんでした。

途中でロールプレイを止められて、こんなことをいわれました。

あなたの今のロールプレイは質問の量が少ない。

そして状況の把握が不完全なままに次に進もうとした。

そして、最後の数分は早すぎるアドバイスに入った。

そして、それが相手の理解もないままに更に続けそうだったので中断したのだ、と。

最初は何故、途中で止められたのか理解できなかったのですが、後でよく分かってきました。

キャリア・カウンセリングでは聞くことに遠慮がある必要はなく、相当に突っ込んだことも聞いておく必要が高い、ということが理解できたのです。

例えば、失業した時に貯金があるのか、自分の収入だけで生活可能なのか、家族構成は、居住地の賃金状況は等々、お金に関わることでかなり深く状況把握しなければならない、というのが指導者のその時の話だったように記憶しています。

これはお金だけではなく、本人の希望や能力の把握やその時の状況（就活であれば準備の段階のどこにいるのかなど）把握やこまごまとした状況把握に乗っ取った情報共有からの本音の引き出しというようなカウンセリングの本質の理解に基づく実施に関わることに、気づかされました。

そして、相当な時間、質問をし続けたのちに本音の確認、方策の提示に向かうことを理解したのです。

これは短時間のロープレでは普通難しい、大きな収穫だったと今にして思います。ただ、直近の思いはカウンセリングと名乗るからには、質問攻めにすればよいというものではないということで、バランスは極めて重要だということです。従って、突っ込んだ質問とカウンセリングマインドの両立が出来ているかどうかのスーパーバイズの仕組みが必要なのではないのかと考える次第です。つまり、スーパーバイズはいつも必要で、誰にも出来る機会が多い方がよいということです。

過去の講演会、研修会などの写真です。



第1回講演会。



キャリア・カウンセラー研修。



キャリア・カウンセラー研修。



2018年度勉強会。

編集後記

コロナウィルスによる自粛が日常になって久しくなりますが、皆さまお元気にお過ごしでしょうか。我々の研修や相談会も中止が続いていて関係者の方々にはご迷惑をおかけしております。イベントが無くなったことでの余剰の時間を今後の活動の準備に使うように、これからも努めていきます。(M.H)